

特定非営利活動法人 緑地雑草科学研究所 2025年9月発行

# ニュースレター 19号

## 目次

活動予告	.....	1
活動報告	.....	1
会員投稿記事	.....	3
編集後記	.....	4



畦畔に咲くイボクサの花 (2025.9 滋賀)

## 活動予告

10月～12月の期間、以下の外部研修会・シンポジウムにて、講演等を行います。

1) 研修会：10月21日、富山県他面的機能推進協議会主催：講演 伊藤操子、「農地まわりの雑草管理：草刈りの問題改善について」

2) シンポジウム：11月14日、神戸市建設局主催：基調講演－伊藤幹二「都市域の雑草対策（仮題）」、パネルディスカッションコーディネーター：黒川俊二

3) 植物管理研修会：11月27日、日本総合住生活株式会社：講師 伊藤幹二・伊藤操子、テーマ「芝生－雑草管理を中心に」・「樹木－剪定管理を中心に」

## 活動報告

### 雑草インストラクター研修報告 雑草インストラクター 小西真衣

前号でご案内しておりました雑草インストラクターと京都大学雑草学研究室との交流研修が、9月12日、京都大学農学部にて予定通りに開催されました。

当日は19名15団体の雑草インストラクターが参加し、雑草学研究室からは学生8名・教員3名の計11名が加わりました。

研修は、当NPO理事でもある黒川教授による雑草学研究室紹介から始まり、参加インストラクターの所属団体・活動紹介、学生による研究発表、圃場・研究室見学、意見交換と、充実したプログラムで進行了ました。

研究発表では学部4回生から博士課程の学生までが登壇し、日本でなじみのある畑地雑草や水田雑草に関連した生態的研究から『スーパー除草剤抵抗性雑草』の研究まで、幅広いテーマが紹介されました。圃場見学では、実際に栽培されている雑草や競合実験の様子を通じて、研究の具体的な進め方を学び、内容の理解を深めることができました。研究棟では歴代の研究室メンバーが採取してきた貴重な雑草標本が保管されている標本庫も見学させていただきました。意見交換では時間の都合上、学生の研究内容への質問を中心にすすめられましたが、研究の背景を深掘りす

る問いや、インストラクターが日頃の活動で得た気づきと関連づけた質問などが交わされ、時間いっぱいまで活発な対話が続きました。懇親会では、学生とインストラクターが年齢や立場を越えて打ち解け、あちこちで話の輪が広がる賑やかなひとときとなり話題も尽きることなく、あっといふ間の閉会となりました。開催後のアンケートでは、多くの参加者から「刺激的で非常に有意義だった」との感想をいただき、研修会の定期的な開催を望む声も多く寄せられました。

今回の研修を通じて、現在の雑草管理技術や導入される雑草に関する規制が、各種研究成果に基づいていることを実感できました。これらの技術や規制を遵守する意義を改めて認識するとともに、研修で得た知識や視点は、今後インストラクターが現場で適切な緑地管理を進めるうえで、大いに活かされるものと確信しています。

本研修の開催にあたり、ご協力いただきました雑草学研究室の皆さまに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



研修会の様子 左：雑草インストラクターの活動紹介 右：圃場見学

## 書籍「クズ対策ハンドブック」刊行

当研究所では、7月30日に新クズ対策ハンドブックを刊行いたしました。

クズについては、生物的側面についてはかなり研究されていますが、その成果は管理関係者には殆ど共有されておらず、クズの制御に関しては信頼できる情報が極めて少ないのが現状です。

「新クズ対策ハンドブック」は、クズの猛威に対してどう対処すべきか、様々な角度から焦点を当てる構成としております。

本書がクズ、クズ問題、クズ制御に関心お持ちの方のお役に立てれば幸いです。

詳細：<https://www.bousou-ken.org/kudzu-handbook.html>




**会員投稿記事**

**所属団体紹介**



## 特定非営利活動法人アーバン芝生植生化研究所 伊藤操子（理事長）

アーバンと称される私たちの生活圏では昨今、生活者は暑熱・水害・雑草害と様々な厳しい環境負荷のもとに置かれています。このような状況からのまちの健康回復は誰もが望むところですが、行われているのはすべて結果管理で、その原因に迫る情報も対策も存在しないのが現状です。私たちは、原因はまちの表土の大半が舗装と荒廃雑草植生に覆われてしまったことにあり、そして、芝生の生理生態的機能の活用が根本的対策として最も有効であるという考えに至っています。当法人の前身である「NPO 法人グラスパーキング技術協会（2012年設立）」の活動を続ける過程においてこの事実気づき、昨年定款変更をもって新しい活動に舵を切りました。

存立目的を、定款（第3条 目的）をもって簡単に紹介させていただきます。

「この法人は、過度な舗装に起因するヒートアイランド化や内水・外水氾濫の発生、炭素循環機能の低下、及び管理放棄による土地荒廃化等、生活圏に進行する環境リスクの増大に対し、有効かつ経済的対策として最も確実な「芝生植生化」を適用するために、科学・技術情報の提供を通して寄与することを目的とする。これをもって、国際協約、持続可能な開発目標（SDGs）の一つである「住み続けられ

るまちづくり」の達成に向けて、企業・団体・行政の具体的な行動をバックアップする。」

つまり、社会には大きな「未開拓の芝生適用対象分野」が存在するという発想です。

雑草植生より芝生の方が美観・景観的に優れているのは言うまでもありませんが、私たちが目指すのは、高額な費用を伴う土木工事でまちの雑草植生を庭園やゴルフ場のような美しい芝生に置き換えることではありません。目的はあくまで「住み続けられるまちづくり」のための芝生植生化であり、雑草が引き起こす様々な害の排除・植生管理経費と労力の負担軽減・地表からの炭素消失の抑制もそのなかにあります。付随して芝によるかなりの修景効果も生まれるでしょう。

どのような芝生植生適用形態がありうるのか、さらに成功させるための技術的基盤の構築などの多くがこれからの課題です。しかし、年数回の刈込みでの管理しやすく・見かけも良く・市民が公園利用できる芝とイネ科雑草混合植生の形成・維持（写真1）、適切な種類選択による粗放管理での持続的芝生維持（写真2、3）などまちで目にするいくつかの光景は、目指す状態が実現可能なことを示唆しています。



**写真1** 芝（ノシバ、ギョウギシバ）とイネ科雑草の混合植生の広場（神戸市）



**写真2** 都市公園マツ林に長年維持されているセントオーガスチングラス植生（神戸市）



**写真3** 車輪受け部分のみをブロックにした大型配送センターのノシバ植生（愛知県）

いずれにしても、この意義ある試みを推進するには、雑草管理と芝生育成管理の両方に関する経験・技術・科学的知見の融合が求められます。芝生植生は雑草対策のひとつでもあります。現在、両 NPO 法人共通の会員（団体・個人）は 10 会員ですが、緑地雑草科学関係者がさらに協働して下さることを願っています。

本稿をお読み下さり関心をお持ち下さった方は、ぜひご

一報ください。ご連絡は NPO 法人アーバン芝生植生化研究所ホームページ(<https://gp-gijutsu.net/>)「お問合せ」から、あるいは [ito-km@yk2.so-net.ne.jp](mailto:ito-km@yk2.so-net.ne.jp)（伊藤操子）へのメールにてお願いいたします。

11月11日にセミナー「アーバン芝生植生化の狙いー失われるまのちの表土機能回復を目指すー」をオンラインで開催します。案内の送付をご希望の方は伊藤まで。

## 〇〇 編集後記・募集 〇〇

9月も末となり、ようやく朝晩涼しく感じるようになってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて、先日、福井県池田町にあるかざら橋に行く機会がありました。かざら橋はつるを用いて作られた吊り橋で、

同様のものが他にも全国にあるようです。実際に使われているのは葛ではなく、サルナシ（しらくちかざら）など、とのことですが、このような活用もあるということ、体感しました。



さて、ニュースレターも今号の発行で 19 回目となりました。次回、第 20 号（12 月刊行予定）に向けて、会員の皆さまのご協力を頂きたく、下記のコーナーへのご投稿をお願いする次第です。

・テーマ“困っている雑草”について、意見や技術情報など

・自由投稿：日頃の気づき、主張したいこと、技術・文献紹介等

・所属団体・企業の紹介

今号またはこれまでの記事についてのコメント、質問なども歓迎します。

ご連絡先：佐治健介 ([k-saji@bousou-ken.org](mailto:k-saji@bousou-ken.org))

ページ編集：宮井駿（京都大学雑草学研究室院生）